

元トップアスリートが活躍する総合型クラブ

対談

「“楽しい”が最強の指導法」

元Vリーガー・金杉由香氏 × 総合型クラブ代表・田口嘉章氏が語る、
地域スポーツの未来

Vリーグ選手として活躍した金杉由香氏が、引退後に選んだのは総合型地域スポーツクラブでの指導者の道だった。

引退アスリートの豊富な経験と知見が、地域コミュニティの子どもたちの可能性を広げ、スポーツの楽しさを再定義する。金杉氏の活動は、アスリートのセカンドキャリアの理想的なモデルケースとして、大きな価値を持っている。

プロの視点とは何か。アスリートのセカンドキャリアの理想形とは。そして、スポーツが地域にもたらす本当の価値とは――。

埼玉県白岡市の総合型スポーツクラブ「白岡Sport-Verein」クラブ代表の田口嘉章氏とともに、トップアスリートの経験が地域スポーツに何をもたらすのか、その可能性について語り合った。



金杉由香 (かなすぎ・ゆか)

埼玉県出身の元Vリーグ(バレーボールのトップリーグ、現・SVリーグ)選手。1995年6月16日生まれ。強豪・八王子実践高等学校(東京)を卒業後、2014年にJTマーヴェラス(現・大阪マーヴェラス)に入団。アウトサイドヒッターとして活躍し、その後ヴィクトリーナ姫路(2018-21)、KUROBEアクアフェアリーズ(2021-22)と、Vリーグの第一線で約8年間にわたりプレーした。Vリーグのサーブ賞をはじめ多数の個人賞を受賞している。2022年に現役を引退。多くのアスリートが悩むセカンドキャリアとして、「地元・埼玉への地域貢献」という道を選び、現在、白岡Sport-Vereinに籍を置き、白岡市立篠津中学校女子バレーボール部の指導を週に2回ほど行っている。

田口嘉章 (たぐち・よしあき)

総合型地域スポーツクラブ「白岡Sport-Verein」代表。白岡市出身・在住。白岡市役所に勤務し、少年団と子供会を両方立ち上げ、学校開放(体育館の一般利用)の仕組みも導入。一方、20歳ころから始めた少年団のサッカー指導はボランティアとして継続。さらに50代半ばで総合型クラブを創設し、市役所を定年退職した後は、正式にクラブマネージャーに就任。「人とのつながり」を何より大切に、Jリーグの村井満元チェアマンにも直接会いに行き、講演会を実現するなどその行動力と地元愛あふれる人柄で、現在は、下は5歳から上は80代までを対象に14以上の教室を運営。情熱と企画力で、白岡市のスポーツコミュニティをけん引し続けている。